

伝統建築に携わること



ふうげつ たかひろ
風月 匠幹廣 氏

株式会社風・住・研
代表取締役社長

1963年京都市中京区西ノ京生まれ。右京区の工務店にて修行後、1997年に独立、開業。2019年に株式会社 風・住・研を設立。
一級建築士／京都市上級文化財マネージャー(建造物)／京町家相談員(大工)

京都との関わり

西ノ京で生まれ、25歳頃まで暮らしていました。西京区に移住して長いですが、やはり太子道や円町周辺は懐かしい気持ち溢れます。仕事先は90%が京都市内です。この7月に妻の実家を改装し、事務所として甦らせました。

伝統建築に携わって

18歳で工務店に弟子入り。かろうじて丁稚の頃は「竹小舞に土壁塗り」でしたが、数年で「間柱の間にグラスウールを張り込む」ように

当財団では多くの専門家のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い想いをもって京都のまちに関わる専門家の方々をご紹介します。

なり、伝統工法から在来工法に変わりました。独立開業を経て、先輩に誘われて古材文化の会に入会したことを機に受講した「活マネ講座※」がきっかけで本格的に伝統建築の保存活用などに興味を持つようになりました。伝統建築の改修工事は、礎石の補強や柱の根継ぎ、ゆがみ直し、竹小舞の補修など様々な技術が必要で、日々勉強の連続です。大工仕事のやりがいはいはなんといっても打合せから竣工までの1から10まですべての工程に携われることです。その上、施主様に感謝され長い付き合いが続きます。親戚や友人を紹介してくださることもあります。これらは大工だからこそ魅力と考えています。

文化財マネージャー育成講座に関わって

受講後にご縁をいただき今に至ります。運営チームに加わり、毎年新しい方と知り合う機会となっています。全国ヘリテージマネージャーネットワーク協議会の設立時(2012)から運営委員を拝命し、全国の同志と情報交換しています。修了生にもこの活動の大切さや社会的な意義などを伝え、仲間を増やしていきたいと思っています。

※伝統建築保存・活用マネージャー養成講座
(現 京都文化財マネージャー育成講座(建造物))

まちセンでは視察を受け入れています

京都のまちの成り立ちや、今なお行われている地域のまちづくりの取組をはじめ、京都の良好な景観を形成する京町家を守る取組を知っていただき、次世代を担う学生の皆様を中心に、京都に愛着を持って、より一層京都を盛り上げていただきたい想いで以下のとおり視察対応を行っています。

【令和7年度4月からの視察実績】

中 学 校(府外)：4校、支援学校(府外)：1校、
高等学校(市内)：1校、公共団体(府外)：2団体

【視察内容】

- 1 これまで取り組んできた地域のまちづくりや京町家再生支援の取組について
- 2 京のまちかどボランティアガイドによる展示施設案内(京のまちかど、洛中洛外図屏風)

【参加者の声】

- ・ずっと京都に住んでいるが、歴史やまちの特徴を初めて知り、もっと京都が好きになりました。
- ・町家の変遷や京都の自然・地形を学ぶことができて良かった。
- ・京都の素敵な風景を残していきたいと思った。
- ・自分たちの暮らしまちで、学んだことを活かしていきたい。

視察の詳細は、当財団ホームページをご覧ください。
HP視察について



ニュースレター

京まち工房 112

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノロ上る
梅湊町83番地の1(河原町五条下東側)ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701 FAX：075-354-8704
E-mail：machii.info@hitomachi-kyoto.jp HP：https://kyoto-machisen.jp



京都市景観・まちづくりセンター 検索



※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター

112 京まち工房

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

おもなトピック

キッズイベント開催
調査業務レポート



「子どもと一緒に!すまいとまちフェスタ」ー地蔵盆体験ー



「発見!体験!まちあるき♪」ーまちを探検して、my地図の作り方を楽しく学ぼう!ー

ごあいさつ

食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋、そしてまちづくりの秋。陽ざしには夏の名残を感じますが、いつの間にか日の入りが早くなりました。今号は、夏の暑さに負けじと元気にまちづくりに向き合った子どもたちの様子をお届けします。併せて、令和6年度に実施した調査業務「京町家状況調査」及び「景観・まちづくりの担い手支援に向けた調査」についてご報告します。

令和7年度賛助会員募集中!

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛 助 団 体 の 皆 様			

夏の子ども向けイベント

学校の夏休みの時期に合わせて、子ども向けイベントを開催しました。京都市景観・まちづくりセンター（まちセン）がある、ひと・まち交流館 京都の地下1階が子どもたちの楽しい声で賑わいました。

「子どもと一緒に！すまいとまちフェスタ」

「こどもと一緒に！すまいとまちフェスタ」を夏休みの時期に開催するようになり、今回が2回目となります。夏の京都の子どものための代表的行事と言えば「地蔵盆」。地蔵盆は“京都をつなぐ無形文化遺産※”にも選定されています。子どもの数が少なくなり、地域によっては行われなくなったり、簡略化されたりしていると言われていますが、当センターでは、“珠数まわし”のほか、同志社大学の学生団体等と連携し、紙芝居、輪投げ、水風船的当て、射的 等々地蔵盆らしい遊びを企画しました。また、同会場内では地蔵盆体験以外にもパネルシアターを使った子ども向けお話コーナーや、夏休みの工作の宿題にも使える「ミニミニたたみづくり」なども企画し、「ミニミニたたみづくり」では、講師から畳文化の説明を受けた後、同伴した保護者の皆様もお子様と一緒に熱心に制作に取り組んでいました。



地蔵盆体験の珠数回し



地蔵盆体験のゲーム

※暮らしの中で伝えられてきた無形文化遺産で、現行の法令上、文化財としての指定・登録が困難なものを京都市が独自の仕組みとして創設しています。

また、今回は子ども向けコーナーを巡った子どもたちに、最後に“ふごおろし”体験を用意しました。企画した我々スタッフでも“ふごおろし”の経験者はおらず、事前練習会を行って本番に臨みました。当日のミニ講座「中世京都の自治活動と地蔵盆」で、ふごおろしは、鞍馬山で名産の火打石を売る際に崖の上からふご（かご）を使って降ろしたことに由来する遊びであるという紹介があり、遊びと学びのある、賑やかな1日となりました。



景品をふごの代わりに袋で下ろす様子



ミニミニたたみづくり



お話コーナーでのパネルシアターの様子

- 開催日：令和7年8月3日（日）
- 主催：京都市
- 企画・運営：京都市住宅供給公社 京安心すまいセンター / 公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター
- 協力：このはな文庫 同志社大学 学生団体 edunka 西脇 一博氏（西脇豊敷物店） 富名腰 隆氏（初音学区自治連合会 副会長） 他

京都のまちの「いま」を知り「これから」に生かす

まちセンでは、京町家等の継承システムの構築や新たな地域まちづくりの手法等、国・市・企業等からの受託事業として各種調査・研究を行っています。令和6年度に実施した2件の調査について報告します。

京都市、立命館大学、当財団の三者で京町家状況調査を実施 京町家の「いま」を調査しました

京町家の保全・継承を支援する上で、京町家の軒数を把握することは重要な第一歩です。平成20年・21年の「京町家まちづくり調査」（第Ⅲ期調査）、平成28年の「追跡調査」に引き続き、令和6年度には、京都市、立命館大学、当財団の三者で京町家の「京町家状況調査」を実施しました。

新たな調査手法

今回の調査では、地理空間情報システム（GIS）を用いながら、不動産取引状況や路線価等、様々な既存のデータと重ね合わせ、一軒ずつ現場で確認することなく京町家の現状を確認しました。

この調査手法は、今後既存データを更新することで京町家の状況を把握することができる「持続可能な調査手法」として構築したものです。また、関係団体や京町家の専門家の皆様方には、ヒアリング調査やアンケート調査へのご協力、京町家の保全・継承に関わる様々な課題についての貴重なご意見をいただき、深く感謝申し上げます。

京町家の残存状況

今回の調査では、34,580軒の京町家の存在が確認できました。一方で、前回調査以降の約8年間で5,566軒の京町家が減少していることを確認しましたが、これは年間約700軒の京町家が失われていることとなります。

京町家全体の減少の割合が13.9%である一方で、当財団が実施する京町家保全のための各種事業を利用した実績のある京町家が減少した割合は5.5%であり、京町家条例（平成29年制定）にて重要京町家として個別指定された京町家が減少した割合は1.8%と、いずれも低く抑えられています。様々な京町家支援が奏功している状況が確認できました。

京都市景観・まちづくりセンターでは、これからも京町家の状況を注視するとともに、京町家の保全・継承をより一層支援してまいります。



景観・まちづくりの担い手支援に向けた 調査を実施しました

これまで、地域における景観・まちづくりは、町内会や自治連合会といった地縁団体が主体となったものが主流であり、まちセンも活動支援を行っています。現在、高齢化や地域のコミュニティの多様化等により、多くの地域で取組の担い手不足が課題となっている一方、自ら問題意識などを持つ個人や団体等により、自発的に、まちづくりにつながる活動も活発になっています。

まちセンでは、様々な形で地域に関わる人たちが、今後、主体的にまちづくりに参画することへの支援を検討するために、令和3年度から令和5年度まで、転入・移住者などで、新たにまちづくり活動に関わり始めた住民の方や団体に対して、地域との関係の持ち方や、活動を始めたり参加するようになった動機や経緯、また、地域と新たな担い手をつないだ仲介者の役割等について調査を行いました。

令和6年度は、活動を持続可能なものにする支援のあり方を検討するため、地縁組織とは独立しつつ、公共的な活動に継続して取り組む団体等に対して調査を行い、新しい形のまちづくり主体であるそれら団体等の活動の理念や取組を続けることに対する考え方、地縁団体や行政との関係などについてヒアリングしました。

多様な主体による景観・まちづくりがこれからも続けられるためにも、既存の協議会・地縁組織と新たな主体者双方の強みや違いを踏まえながら、今後のまちづくり支援について引き続き検討していきます。



京都市、NPOと合同でヒアリングを行いました

JIA建築と子供たち2025 in KYOTO 開催

「建築と子供たち」と題するこの取組は、子供たちが考え設計したものを、模型にして参加者にプレゼンするワークショップです。実際に活躍されている建築家からアドバイスを受け、楽しみながら建築家のお仕事を体験できると毎年評判です。今回も募集開始1時間で予約枠が埋まる人気ぶりでした。昨年は「身近な人の家または自邸」を設計しましたが、今年は「〇〇を営む京町家の設計」をテーマとして、京町家の保全・継承に携わっているまちセンと、例年以上に親和性の高い催しとなりました。参加した子供たちは、職住併用という京町家によくみられる特徴を「社会と繋がる働く場」と「私的な場」と位置付けて、異なる用途の空間を盛り込む設計に挑戦しました。想像した京町家を形にするために、悪戦苦闘しながらも夢中で手を動かす姿からは、大きなエネルギーを感じました。



- 開催日…令和7年7月27日（日）
- テーマ…〇〇を営む京町家の設計
- 対象…小学4年生～中学2年生
- 主催…公益社団法人日本建築家協会近畿支部・京都地域会
- 共催…公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター
- 後援…京都市教育委員会
- 協賛…公益社団法人 JIA 近畿支部協力会員委員会
- 協力…京都大学、京都工芸繊維大学、京都芸術大学、京都芸術デザイン専門学校、他

景観まちづくり大学 地域まちづくりセミナー開催報告

「発見！体験！まちあるき♪」 －まちを探索して、my地図の作り方を楽しく学ぼう！－

これまで秋に開催していたまちあるき講座を今年は小学生を対象に、夏休みの自由研究にも活用できる講座として開催しました。午前10時から午後3時まで、1時間の休憩を挟んだ4時間の講座に小学1年生から6年生まで幅広い学年の参加者が集まりました。午前は座学で“まちを見る練習”をした後、まちセン周辺を歩きました。あいにく小雨模様の天気となりましたが、小グループに分かれ、まち中に出題されるクイズの答えも考えながら歩きました。午後からは、地図づくりで、まち歩きで見かけた物や、景色の写真を地図に貼り付け、思い思いの説明を書き入れた地図づくりに取り組み、個性あふれる地図が完成しました。



- 開催日：令和7年8月10日（日）
- 講師：（一社）マチノミカタ
- 内容：歩いたまちの地図の作成
- 対象：小学1年生～6年生